



滞在アーティストによるイベント フォーチュン料理展

会期：2024年12月12日（木）12:00-13:30

会場：天神山アートスタジオ 1階

参加無料 来場者数：11名

アーティストについて：[rumu&haruna](#)

分野：美術 活動拠点：日本

イベントについて

500円玉と引き換えに、ユニークな小皿料理を試食。占星術と占いで、北海道の旬の味覚の創作料理を楽しみました。



Exhibition レネ・アバロア/Renée Abaroa 六時半です/it's half past six

会期：2024年12月19日（木）-22日（日）9:00-21:00（19日は17時より開催）

会場：天神山アートスタジオ 1F 展示スペース

入場無料 来場者数：408名

コナー・グレアによる朗読イベント：12月19日（木）17:00-17:10

アーティストについて：[レネ・アバロア/Renée Abaroa](#)

分野：デザイン 活動拠点：メキシコ

展覧会について

「六時半です/it's half past six」というタイトルは、私がこのプロジェクトに取り組んでいる時間に由来している。ここに描かれているキャラクターは2018年に初めて描かれたもので、音楽を逃避の手段とするニヒリストの

エイリアンだ。それぞれのイラストは曲からインスピレーションを得ており、このプロジェクトは描かれたプレイリストになっている。

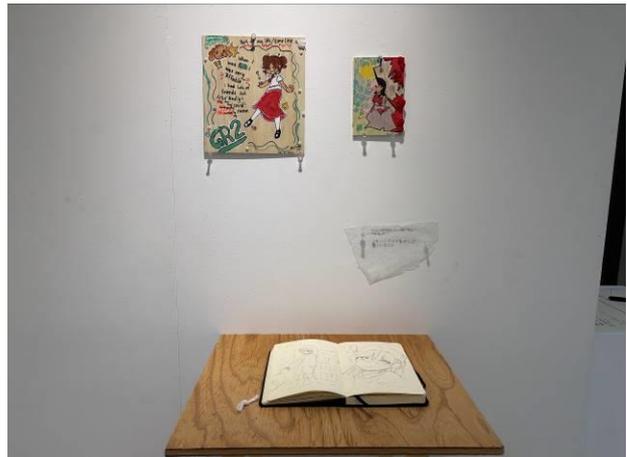
私の父方の家族は全員音楽家で、幼い頃から音楽は私の人生において本当に重要な位置を占めていた。祖父がピアノを弾く音は、いつも私と祖母の料理のお供となっていた。

父との最初の思い出のひとつに、父が茶色い大きな箱を見せてくれたことがある。そこには父の最も大切な楽器であるトランペットが入っていた。また、父とYouTubeで、交互に音楽を聴かせ合ったことも数え切れないほど覚えている。

アバロア家の団欒はすべてジャムセッションとなり、話す話題のほとんどは音楽に関するものだ。そのため、私は若い頃から様々なジャンルに触れ、好奇心を掻き立てられた。渡辺貞夫、関戸茂雄、稲垣次郎と彼のソウル・メディア、日野皓正、カシオペアなどなど。

結論として、このイラストは私の祖先への賛歌であり、音楽への愛である。

札幌は私の心の中で本当に特別な場所であり、私が札幌を愛する理由のひとつは、プレシャスホールに行ったことにある。あのスピーカーのクオリティ、イコライジング、音の分割は、私がまるで死んでいた状態の時に蘇らせてくれた。



Exhibition_リンズリー、ミシェル・ポーリン・リム、アニカ・リー/ Lindslee, Michelle Pauline Lim, Annika Lee_タイムライン Time Line

会期：2024年12月24日(火) 17:00 -25日(水) 21:00

会場：天神山アートスタジオ 1F 展示スペース

入場無料 来場者数：365名

アーティストについて：

Lindsey James Lee/リンジー ジェームス リー (美術、写真) 活動拠点 フィリピン

Michelle Pauline Lim-Lee/ミシェル ポーリン イムリー (美術) 活動拠点 フィリピン

展覧会「タイムライン/ Time Line」について

タイムライン(時間軸という意味)とタイトルをつけたこの展覧会は、家族としての私たちの個人的なタイムラインを探求し、個人的な経験と、共有する経験の交差点に焦点を当てるものです。共同作業を通して、私たちを結びつける共通の糸を強調しながら、各メンバーが独自の視点を提示します。

<観客へのメッセージ> タイムライン展へようこそ。

札幌という素晴らしい街での共同展示は、私たち家族にとって特別で初めてのことです。アーティスト・イン・レジデンス（滞在型制作プログラム）のこの12日間、私たちは創造性、内省、そして一体感に没頭してきました。

12月24日から25日まで、この一日だけの展覧会は、家族としての私たちの経験、考え、感情をとらえたものです。作品を通して、私たちは時間の大切さ、つまり私たちが作り上げた思い出や共有した瞬間について考えています。

冬の雪という新しい環境に身を置くことは、私たち家族の時間軸において深く重要な1ページとなりました。この旅にお付き合いいただき、ありがとうございました。

<展覧会のためのメモ>

タイムライン

思い出すこと。気づき。あなたは何年生きたいですか？70？75？80？それは重要か？大切なことだろうか？

私たちはそれぞれ、人生を紡ぐ有限の糸である一本のタイムラインを与られている。その糸で何をするのか？あなたが12歳であろうと、25歳であろうと、45歳であろうと、75歳であろうと、残された時間はどれくらいだろうか？

時間は容赦なく流れ、睡眠、食事、通勤といったありふれた瞬間に気づかぬうちに過ぎ去っていく。しかし、喜び、不安、寂しさ、痛みなどを通して、私たちの存在を高めてもくれる。

私たちの鼓動は時計のように時を刻む。車は一瞬のうちに通り過ぎる。吸い込んだ息はすべて吐き出される。疑問は残る：私たちは時間を何に使っているのだろうか？



Art&Breakfast Day 2024年12月

会期：2024年12月22日（日）10:30-12:00

会場：天神山アートスタジオ 1階

入場・参加無料 来場者数：5名

日曜日のスタジオの講師でもあるクリスティアン・ボッフエツリが、自身の作品について話しました。



日曜日のスタジオ「贖罪の仮面を作ろう」

会期：2024年12月21日（土）、12月22日（日）13:00-16:00頃

会場：天神山アートスタジオ 交流スタジオA

入場・参加無料 参加者数：9名

講師：クリスチャン・ボッフエッリ（滞在アーティスト）、ニックネーム：キッコ

レポート（ウェブサイトより一部抜粋）：

アフリカやインドを中心に世界各国を旅してきたキッコさんですが、その経験の中で仮面に興味を持ったそう。土地によって仮面のデザインや素材、コンセプトは多種多様なものですが、それぞれの仮面のルーツをたどると、ある共通点があることに気付きます。それはほとんどの仮面が、元々は土地の宗教的理念に紐づけられていたということです。多くが、仮面を被ることで神を我が身に降ろすという、神と人間の仲介的な役割を担っていました。そして、今回作るのが「贖罪の仮面」。贖罪という言葉は、キリストに代表されるように犠牲・代償を払うことで、許しを得るような行為をイメージしやすいですが、キッコさんの意図はそこにはありません。個人の欲望ではなく、共同体などの幸せを願う物としての仮面を作ります。まず紙に作りたい仮面のスケッチを描き、その後ダンボールを切ったり装飾したりして各々創意工夫しながら仮面を制作しました。

アーティストについて：クリスチャン・ボッフエッリ/Cristian Boffelli（美術）活動拠点日本

1972年ヴァプリオ ダッダ（ミラノ県）生まれ。ミラノ プレラ国立美術大学 絵画科を修了。2002年4人の作家と共に、知的障害者の創造活動のための協同組合「L.P.K.工房」を設立。その後、10年に渡り絵画、版画と陶芸を通して、障害者や子供の表現活動の促進に寄与する。同時に、絵画や版画を中心とした作家活動を続け、ブラジル、日本、インド、スリランカ、アメリカなど世界各地での滞在制作や展示を行う。